

平成30年度天皇杯受賞者受賞理由概要
畜産部門

高品質な生乳・堆肥生産に立脚した「質で勝負」の高収益酪農経営

○氏名又は名称 内ヶ島 賢勇・内ヶ島 美津代

○所在地 熊本県山鹿市

○出品財 経営（酪農）

○受賞理由

・地域の概要

山鹿市は熊本県の北部内陸部に位置し、酪農は戸数34戸（経産牛は約2千頭）で、県内市町村別の規模では菊池市、合志市に次ぐ酪農地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

内ヶ島賢勇氏は、昭和63年に就農し、平成9年に経営移譲をされた就農2代目の酪農経営者。平成17年に（有）茶ノ木を設立して経営の高度化を図り、翌年にはフリーバーン・パーラー方式の牛舎を新築して今に至る。経営は夫妻と長男夫妻の4名を主体に、両親が随時手伝う形の家族労働力6名で、経産牛78頭と未經産牛32頭を飼養している。高泌乳を追い求めず、牛群の繁殖状況と乳生産のバランスを考慮した飼料設計、暑熱対策、衛生的な搾乳作業など、牛のことを一番に考えた「質で勝負」の経営を実践している。

・受賞者の特色

（1）高品質な生乳・堆肥生産に立脚したゆとりある高収益経営

- ① 乳脂率4.08%、無脂固形分率8.91%、体細胞数9.6万個と高品質な生乳を安定的に生産しており、九州生乳販連生乳品質共励会において5年連続で優秀賞以上を受賞。このため、生乳1kg当たり単価は県平均より約3円高く、高収益性を実現。
- ② 堆肥生産技術は、県のコンクールで「堆肥の達人」に認定されるほど優秀。堆肥を飼料畑への還元や牛床の敷料として利用。
- ③ 哺乳ロボットを活用した労力軽減、月2回程度のヘルパー利用も組み合わせ、労働時間1日1人当たり7.1時間のゆとりある経営を実現。

（2）女性の活躍

美津代氏と長男の妻の2人は、主に搾乳、哺育、生乳生産管理の作業を行い、飼料収穫の繁忙期にはトラクターやダンプの運転もこなしている。また、美津代氏は、小学校での食育講座や酪農女性部での活動に取り組むなど、地域や産業振興のために活躍している。

・普及性と今後の発展方向

飼料の成分バランスを考慮した飼料設計、良質な戻し堆肥の敷料利用、推奨される搾乳手順を遵守した乳房炎コントロールなど、飼養技術は地域の酪農家の模範となっており、堅実でゆとりある経営モデルとして普及性が高く期待できる。